



第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 理事会企画 2

WOCNの実践を継承するために ケーススタディを投稿しましょう

平成27年5月30日(土)

日本創傷・オストミー・失禁管理学会

編集委員長 須釜淳子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません
本資料は学術集会で発表した内容を修正したものです

これまでに、
症例報告、ケーススタディ、ケースレポート
を書いたことがありますか？



本日の内容

1. 症例報告(ケースレポート)とは
2. ケースレポートの構成と各構成の書き方
3. 具体例1 & 2
4. まとめ

参考にした図書・文献

1. 松原茂樹:論文作成ABC:うまいケースレポートの作成のコツ 東京医学社 2014
2. 長瀬敬 症例報告の仕方 医師が伝授する症例報告のツボ 170-179 EBナーシング 2011 V.11増刊2号
3. 山川みやえ、牧本清子編著:研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 日本看護協会出版会 2014
4. Idrus Alwi: Tips and tricks to make case report. Acta Med Indones- Indones J Intern Med 39: 96-98, 2007

ケースレポートとは

The main purpose of case report is to educate clinicians about the clinical features, investigation, and/or the treatment of patients with unusual problems.

It is important to remember that all the rules that apply the forms of medical writing, also apply equally to case reports.

- ✓ ケースレポートの主な目的は臨床家を教育することである。その内容は、臨床症状・特徴、(新しい)製品、方法に関する調査、通常と異なる問題を抱える患者への治療・ケアである
- ✓ レポート作成のルールは、他の論文(原著、短報など)と基本的に同じである

文献4、 翻訳 須釜



どのようなケースを報告する？

The case must be special and have a message for the reader.

- ✓ 過去に報告されていない臨床症状を有した症例
- ✓ きわめて稀な経過を示した症例
- ✓ 治療・ケアに対し思わぬ効果があった症例
- ✓ 治療・ケアに対する有害事象
- ✓ 症状に対し、正しいテストを選択しなかったため誤った診断・アセスメントを行った症例
- ✓ 新しい診断・アセスメント機器、または新しいケアを実践した症例
- ✓ 2疾患の新しい関連性

文献1, 2, 4



ケースレポートからわかること

- ✓ 患者がどのようにケアを受けたのか
- ✓ 疾患・症状がどのように進行したのか
- ✓ どのような治療・ケアが行われたのか。

文献1, 2,



症例報告(ケーススタディ、ケースレポート) に関する問い1

What am I going to report ?

なぜ、その症例を選んだのでしょうか？



答:これまで知られていなかった
有害事象、症候・経過、関係性
ケア方法などがあつた

文献1, 2, 4



症例報告(ケーススタディ、ケースレポート) に関する問い2

What am I going to report ?



その症例から学んだことは何だったのでしょうか？

答:新しいアイディを発見した！
臨床で有用なことを見つけた！

文献1, 2, 4



症例報告(ケーススタディ、ケースレポート) に関する問い3

Which journal am I going to publish the report ?

誰に伝えたいのか？



答: 創傷ケアの専門看護師(WOCN)
一般看護師
創傷管理の専門チームメンバー



文献1, 2, 4

ケースレポートの構成

タイトル (Title)

はじめに (Introduction)

症例提示 (Case description)

考察 (Discussion)

文献 (References)

謝辞 (Acknowledgement)

文献 1, 2, 3, 4



タイトル: Title

- ✓ タイトルだけで論文内容がわかる
- ✓ できるだけ短く
- ✓ 雑誌・読者に応じたタイトルを工夫する。興味を引く単語をタイトルの最初に配置
- ✓ 症例報告、〇〇の一例 の表記は入れなくても良い

文献1, 2, 4



はじめに: Introduction

第1段落: 何がすでにわかっているのか?

第2段落: 何がわかっていないのか?

第3段落: 今回のテーマ(問題)は何か?

症例報告する意義

今回、われわれは、〇〇〇の症例を経験したので報告する。

そのような例があるのだろうか? あったよ!!

その他: 用語の解説

(あまり普及していないものに限定)

文献1, 2, 4



症例提示：

Case description, Case history

第1段落目

- ✓ 医学的・社会的背景や家族背景、年齢、性別、職業など必要に応じた情報
- ✓ 診断名、合併症、治療内容、検査データなどの記述。必要に応じて時系列
- ✓ 新たなケアを始める前のケアに関する情報
- ✓ 研究目的にそわない情報は不要

Key point: 時系列、詳細に記述する
症例検討会の資料をそのまま使用しない

文献1, 2, 3, 4



症例提示： Case description, Case history

第2段落目

- ✓ 経過を時系列に示す
- ✓ 患者の経過とアセスメントを具体的に示す
- ✓ 評価法は明確に示す
- ✓ 図表や写真を用いて視覚的にアピールする
(創傷、用具、手順表、痛み・症状の変化、など)

Key point: 時系列、詳細に記述する、創傷評価スケール等の活用

文献1, 2, 3, 4



症例提示： Case description, Case history

第3段落目 倫理的配慮

- ✓ インフォームドコンセント
- ✓ プライバシーの保護
- ✓ 患者に関する写真の提示

文献1, 2, 3, 4

考察 : Discussion

- ✓ 事例のユニークさや独自性を記述
- ✓ 事例の多様な側目から解釈する
- ✓ 他のどのようのケースレポート(先行研究)との比較
- ✓ この症例を経験したことで学ぶべきことは何か
- ✓ 研究の限界
- ✓ 過度の一般化は避ける

文献1, 2, 3, 4



考察 : Discussion

第1段落: 今回の研究でわかったことを書く(結論)

第2段落: わかったことの1つ目の内容、解釈

第3段落: わかったこと2つ目の内容、解釈

第4段落: どこまで一般化できるか(省略可)

第5段落: 結論 & 臨床的有用性

結論

ここを知っていると陥りやすい落とし穴にはまらずに済む
稀でなく、どこにでも存在するかもしれない

文献1, 2, 3, 4



謝辞等 : Discussion

- ✓ 症例研究実施において貢献した方(共著者除く)
- ✓ 利益相反
 - 新しい製品、測定機器等
 - 研究助成などの資金源
 - ケースレポートのもとになっている大規模研究

文献1, 2, 3, 4



論文が完成したら何をする？

1週間程度は原稿から離れる
原稿を音読する
症例を知らない人に読んでもらう



内容の修正
体裁の修正
投稿規定との整合性を確認



投稿

文献4



おわりに



皆様からの症例報告
(ケース・レポート)の
投稿を編集委員会
一同お待ちしております

WOCNの実践を継承しましょう！！

